

<これぞ最悪の光景>



岡本駅近くのファミリーマート前

ある日の帰り道、胸のあたりがゾクゾクゾクー！！とするそれを発見してしまった。左上の二重丸は何だ。柱に近づくとつれて気持ち悪さが増す。もう少し整えてくれよと思う。

これを見てしまってから頭上に注目して歩いてしまう。私の住んでいる町はノン電柱タウンだということにも気づいた。空が何にも邪魔されずに見渡せる。同じくらいの道幅なのに、明らかにこちらの方が狭苦しい。

## <蜻蛉>



岡本町1丁目10 中島橋横

本数が多くても、かわいらしいものがあつた。地面と垂直に立っていないが、不安定な感覚はなく、片足できちんとバランスをとってすましている。関節のようなものからすくと生えているきれいなライン同士が自由に入り交ざる、無造作で程よい空間が存在する図。先程の嫌悪感は線の多さではなかつたようだ。

## <直線の美しさ>



甲南大学正門下 阪急の線路

向こうのほうから特急新開地行きが勢いよく来る予感。まっすぐで太さも整ったきれいな線が気持ちよかった。一点からこちらへ差してくる黒い光線たちの間で、道路の真上にすどんと空いた空間がなんともさわやか。これは文句一つなく好きだと思った。

私の日常には無い、邪魔に感じていた黒線たちだが、おもしろいとか好きだとかいう感情が生まれてきた。

## <交差点>



甲南大学正門前

道が交差するところで電線も交差する。しかし重なり合わないように上手に位置している。この枠の中で何種類もの平行・垂直関係が存在している。ここでの線は邪魔ではなく飾りのように思えた。一定の間隔がそれぞれあって、目障りにはならない。

\*\*\*\*\*

振り返ってみると、私が嫌なのは1つだけだった。母の裁縫箱の針山周辺を見たときのような、変な血が騒ぎ、頭や胸がかゆくなるアレだけだ。他はみな楽しませてもらった。そこには、整っていたり無造作だったり、形は様々ではあるが、私を気持ち悪くさせない程よい空間があった。